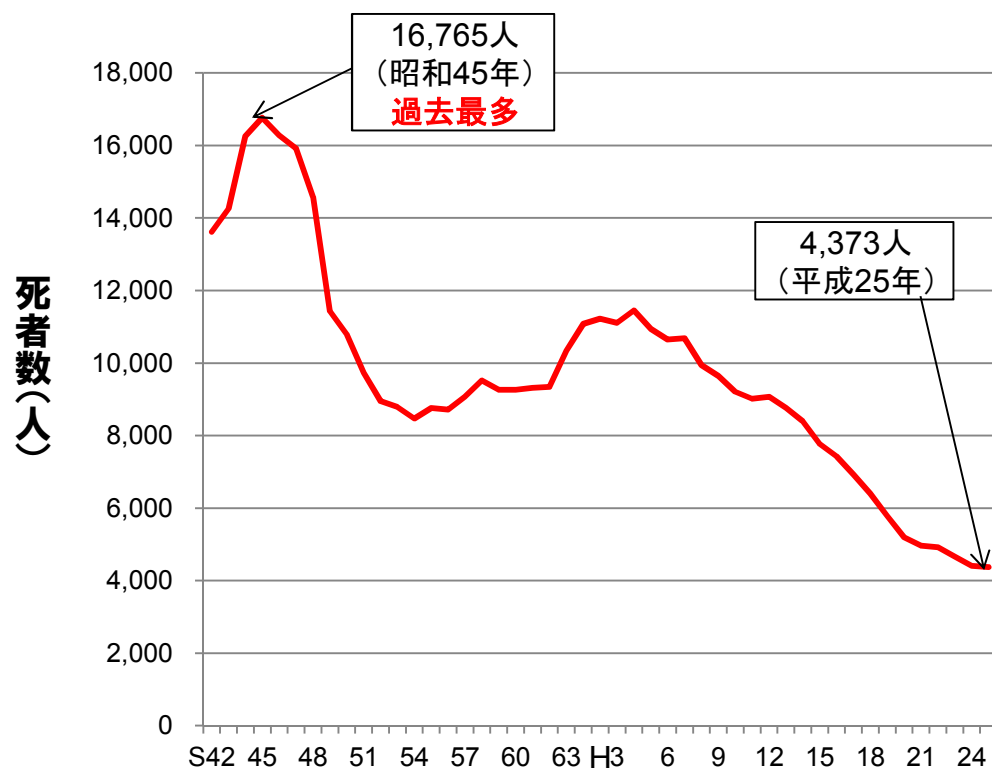


生活道路をとりまく環境

交通事故死者数の現状

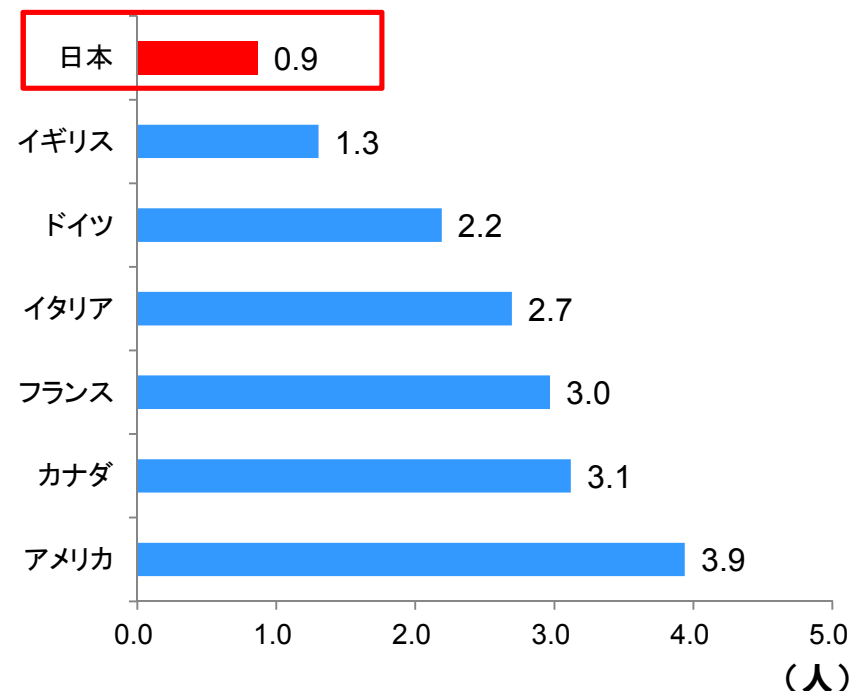
- 平成25年度中の交通事故による死者数は、4,373人で13年連続の減少となり、ピーク時の4分の1以下まで減少。
- 人口10万人あたりの自動車乗車中の死者数は先進国の中で最も少ない。

■交通事故死者数の推移



出典:警察庁公表資料

■人口10万人あたり自動車乗車中死者数

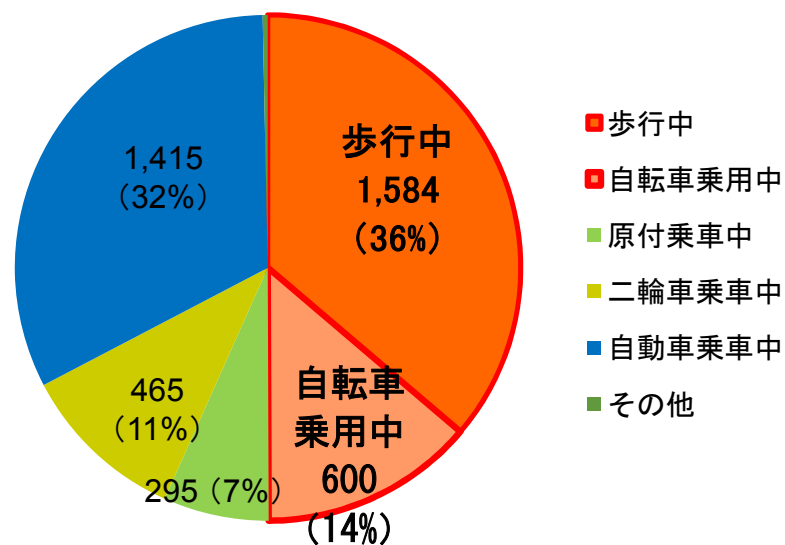


国際道路交通事故データベース(IRTAD)データ(30日死者数(H24))をもとに作成

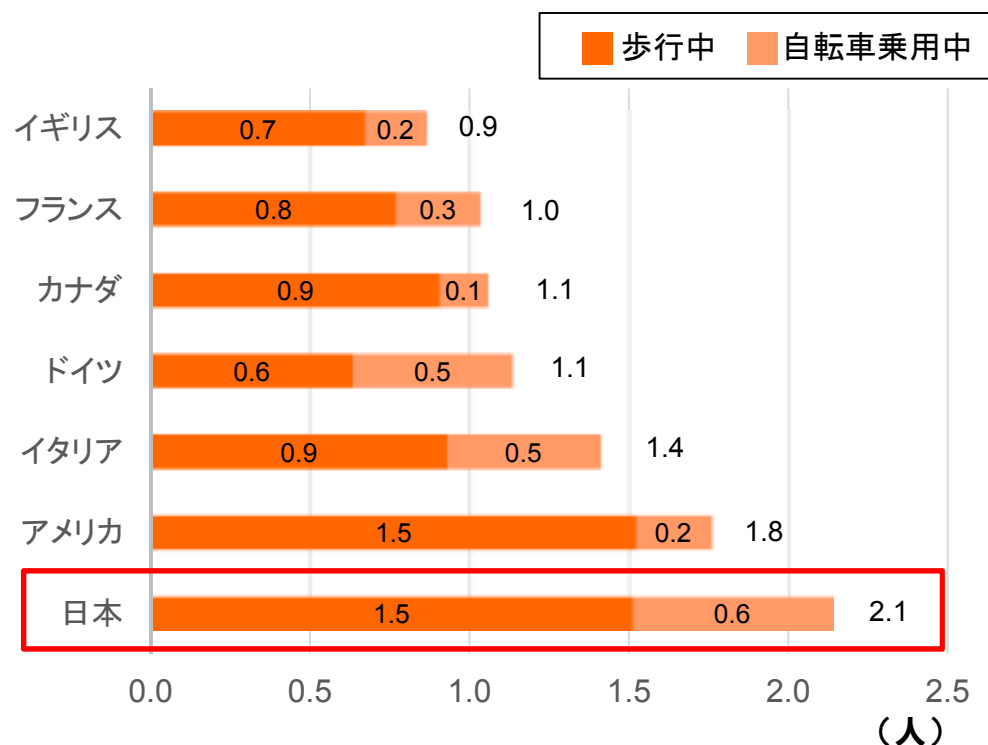
歩行中・自転車乗用中の死者数

○歩行中及び自転車乗車中の死者数の比率が50%を占める。
 ○人口あたり歩行中及び自転車乗車中の死者数は、先進国の中で最下位。

■状態別死者数(平成25年)



■人口10万人あたり死者数(歩行中・自転車乗用中)



※小数点1位未満を四捨五入のため、内訳の合計が総数に合わない場合がある

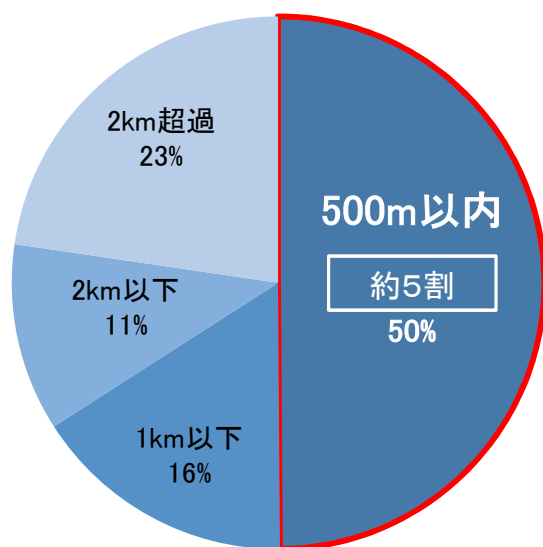
国際道路交通事故データベース(IRTAD)データ
 (30日死者数(H24))をもとに作成

交通事故総合分析センター(ITARDA)データ(H25)をもとに作成

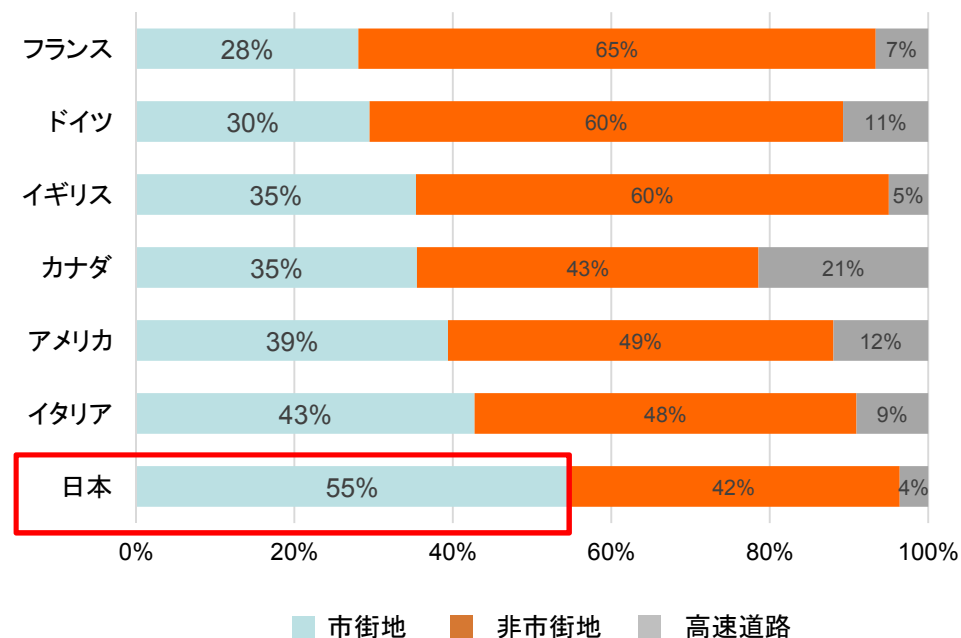
身近な道路で事故が発生

- 歩行中・自転車乗車中死者のうち、自宅から500m以内で死亡する割合が約半数。
- 市街地での死者数の割合が先進国の中で最下位。

■自宅からの距離別死亡事故発生状況
(歩行中・自転車乗車中)



■発生場所別交通事故死者数の割合
(全死者数)



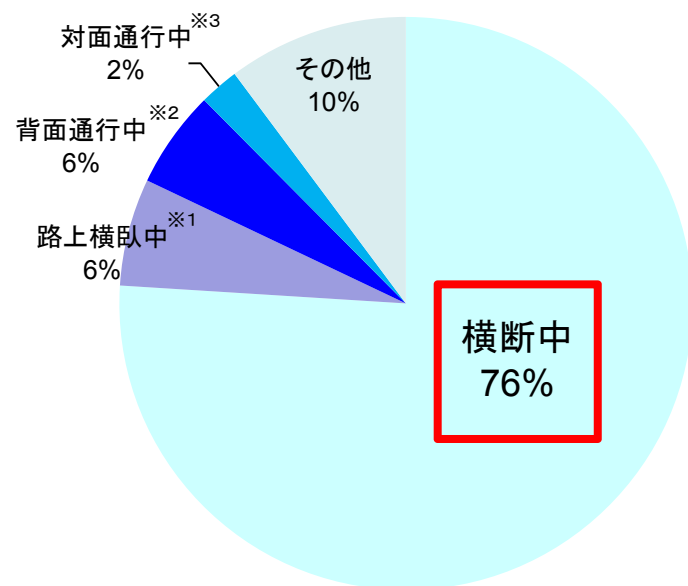
交通事故総合分析センター (ITARDA) データ (H25) をもとに作成

国際道路交通事故データベース (IRTAD) データ
(30日死者数 (H24)) をもとに作成

身近な道路で事故が発生

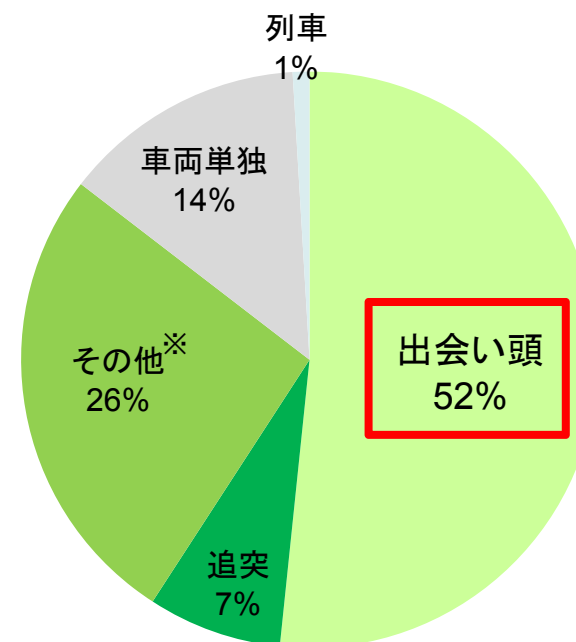
- 自宅から500m以内の歩行中の事故は、歩行者が横断中に発生。
- 自転車乗用中の事故は、車両との出会い頭の事故が多い。

■自宅から500m以内の死亡事故の類型（歩行中）



- ※1 路上横臥中とは、道路上に横たわっていた時に発生した事故をいう
- ※2 背面通行中とは、歩行者が道路を通行中、歩行者の後方から相手方車両が進行してきて発生した事故をいう
- ※3 対面通行中とは、歩行者が相手方車両と対面して道路を通行中に発生した事故をいう

■自宅から500m以内の死亡事故の類型（自転車乗用中）

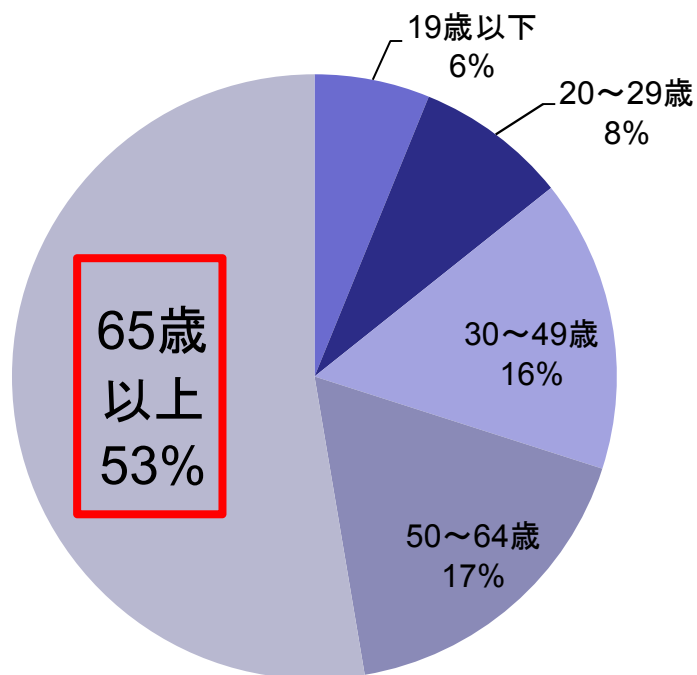


- ※車両相互（その他）には、車両相互（正面衝突、追越追抜時、右折時、左折時、その他）を含む

高齢者の死亡事故が多い

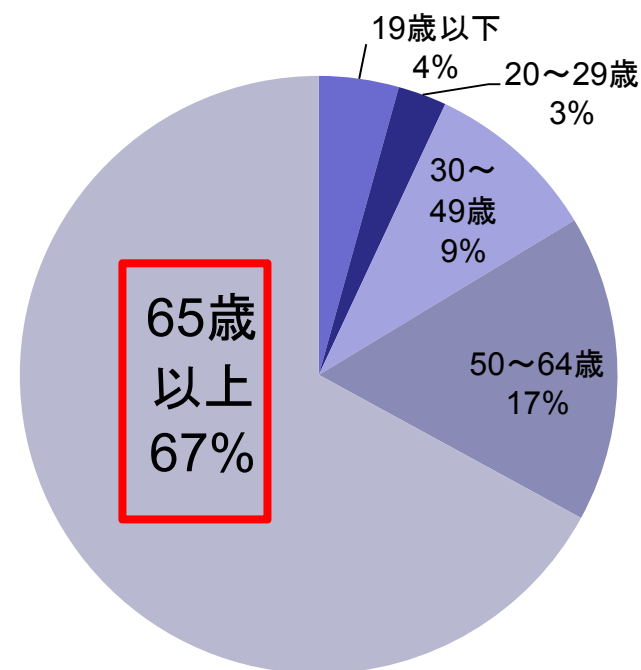
- 死亡事故の約半数は高齢者(65歳以上)。
- 歩行中・自転車乗車中死者は、特に高齢者の割合が高い。

■年齢層別死亡事故発生状況



交通事故総合分析センター(ITARDA)データ(H25)をもとに作成

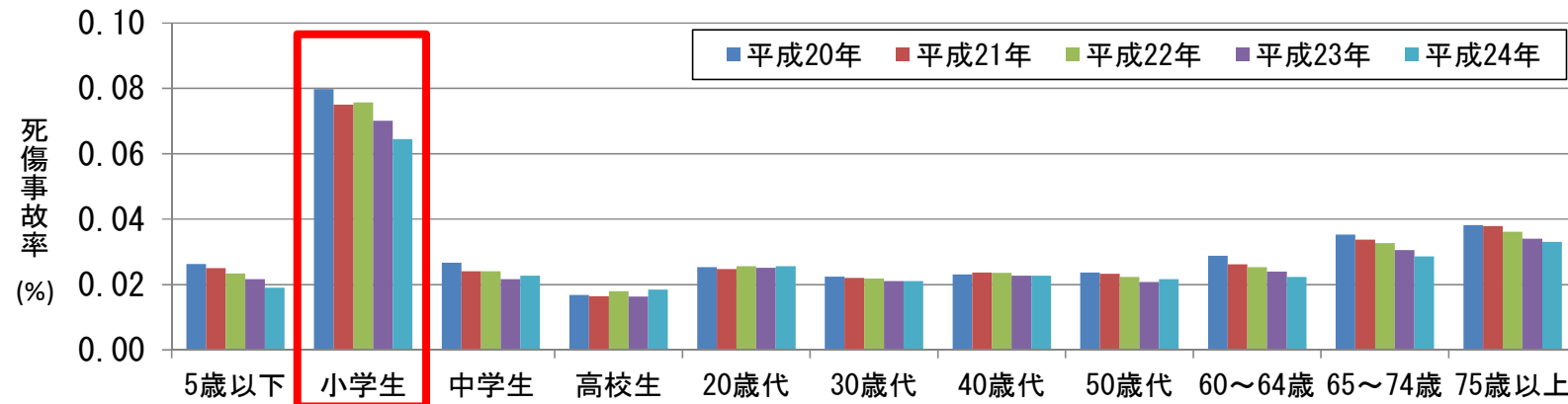
■年齢層別死亡事故発生状況
(歩行中・自転車乗車中)



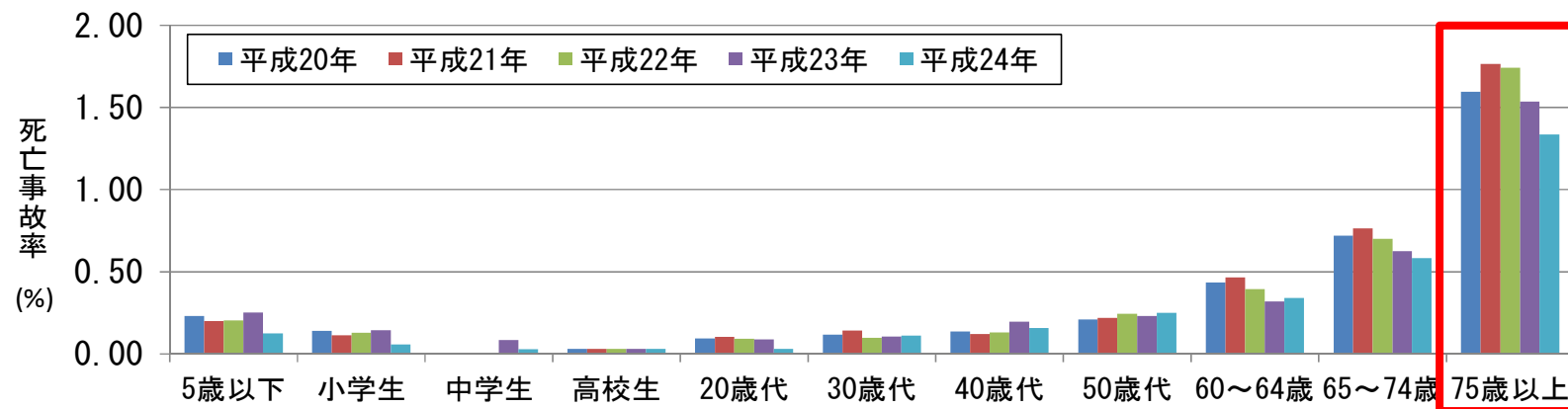
交通事故総合分析センター(ITARDA)データ(H24)をもとに作成

○生活道路における人口あたりの交通事故は、死傷事故では小学生、死亡事故では75歳以上の発生確率が高く、子どもや高齢者の事故率が高い。

■人口1人あたりの年代別死傷事故件数



■人口千人あたりの年代別死亡事故件数



※死亡(死傷)事故率=死亡(死傷)事故件数÷人口
 ※死亡(死傷)事故件数は、人対車両事故を対象に第2当事者の属性により算出
 ※幅員13.0m未満の市町村道を対象
 ※小学生、中学生、高校生の事故件数は、当事者の職業で抽出
 ※小学生、中学生、高校生の人口は、文部科学統計要覧（平成25年版）を使用
 ※小学生、中学生、高校生以外の人口は、総務省統計局HPの統計データ（人口推計）を使用

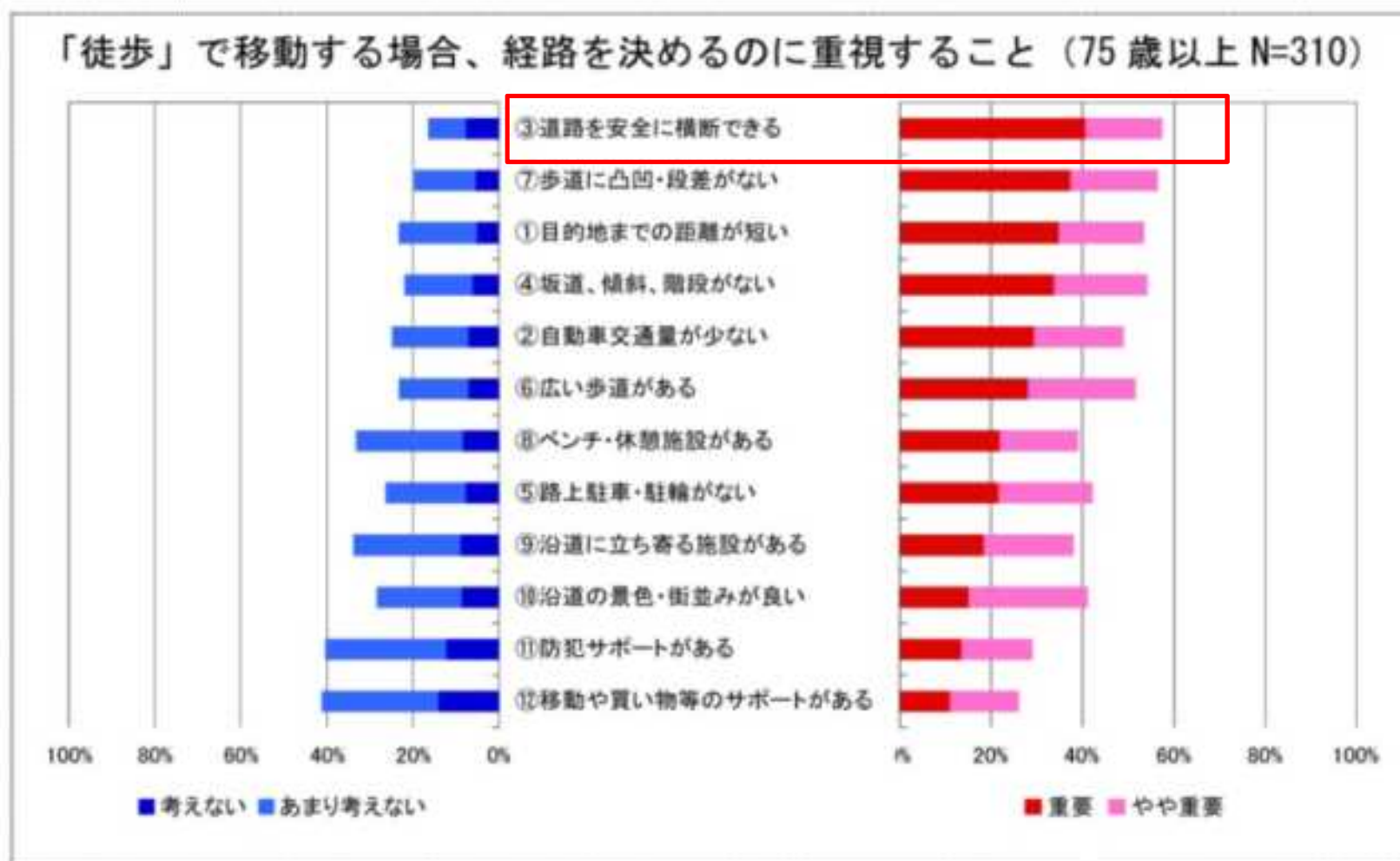
通学中の児童の事故の発生状況

○通学中の児童が交通事故に巻き込まれ死亡する事故が毎年発生。

年	月日	発生場所	概要
平成24年	4月23日	京都府亀岡市	府道において、集団登校中の児童の列に、無免許運転の軽自動車が入り込み、3名が死亡、7名が重軽傷
	4月27日	千葉県館山市	県道において、バス停でバスを待っていた児童らに軽自動車が入り込み、1名が死亡
	5月14日	大阪府大阪市	府道において、歩道を歩いて学童保育に向かっていた5人の児童の列に軽自動車が入り込み、1名が死亡
平成25年	9月5日	千葉県袖ヶ浦市	市道交差点で横断歩道を渡っていた下校中の児童をトラックがはね、1名が死亡
	10月2日	京都府京都市	市道を自転車で下校していた児童に、飲酒運転の軽自動車が入り込み、児童1名が死亡
	10月7日	山形県山形市	県道において、下校中に道路を横断していた児童をトラックがはね、児童1名が死亡
	10月23日	埼玉県吉見町	県道において、横断歩道を渡っていた小学生をトラックがはね、児童1名が死亡
平成26年	2月17日	神奈川県横浜市	市道において、下校中に横断歩道を横断していた児童を路線バスが巻き込み、1名が死亡
	4月9日	茨城県神栖市	県道と市道の丁字路において、下校時に道路を横断していた児童を左折する大型トレーラーが巻き込み、1名が死亡
	4月10日	静岡県沼津市	県道の信号機のない交差点付近において、登校中の児童を軽自動車が入り込み、1名死亡、1名が軽傷
	4月18日	兵庫県神戸市	市道において、下校中に横断歩道を横断していた児童を乗用車がはね、1名が死亡
	6月4日	東京都江東区	主要地方道において、下校中に横断歩道を横断していた児童をトラックがはね、1名が死亡
	6月24日	東京都大田区	主要地方道において、下校中に横断歩道を横断していた児童をトラックがはね、1名が死亡
	9月17日	東京都世田谷区	都道において、下校中の児童の列に軽トラックが入り込み、1名が死亡、2人が重軽傷
	10月29日	愛知県岡崎市	県道において、下校中に横断歩道を横断していた児童を軽自動車が入り込み、1名が死亡
平成27年	11月27日	神奈川県平塚市	小学校の正門前の市道において、授業中写生していた児童を他の児童を迎えにきた自動車が入り込み、1名が死亡
	1月21日	神奈川県川崎市	市道において、登校中に横断歩道を横断していた児童をクレーン車が巻き込み、1名が死亡
	2月12日	鹿児島県いちき串木野市	国道において、登校中に信号機のない横断歩道を横断していた児童を軽自動車が入り込み、1名が死亡、1名が重傷

徒歩移動の推進には交通安全対策が重要

○75歳以上の高齢者は、徒歩で移動する経路を決めるのに、道路を安全に横断できることを重視している。



出典：平成22年 新潟市、岐阜市、志木市、牛久市住民アンケート調査